



～あんず通信では、感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

## 【感染症だより】

### ～ヘルパンギーナ～

8月ごろから日本国内で手足口病とヘルパンギーナの流行が徐々に拡大しています。福生周辺でも10月、11月は依然としてヘルパンギーナが出ています。これらは夏風邪と言われるウイルスですが、新型コロナウイルスが減少してから勢力を伸ばしているようです。39～40℃くらいの高熱が出ることもありますが、ほとんどが軽症で数日のうちに改善します。のどに口内炎のような水疱が出来るため、痛くてお食事を摂取できないこともあります。解熱して食べられるようになれば登園可能です。

### ～新型コロナウイルスと人口動態について～

2020年1年間の人口動態データで新型コロナウイルスを振り返ってみましょう。2020年我が国の年間総死亡数は約138万人で11年ぶりに減少していました(11年ぶりに人口減少が止まった)。欧米諸国ではコロナの影響で総死亡数が増え、超過死亡数がプラスとなりました。一方、日本は超過死亡数がマイナスで世界で最も少なかったのです。総死亡数が減少した要因は、新型コロナウイルス対策によってインフルエンザなどの他の感染症が流行せず、コロナ以外の感染症(肺炎など)の死亡数が減少したためと言われています。厚労省の発表による2020年の死亡原因の上位を見ても、1位のがん、2位が心疾患、3位が老衰、4位が脳卒中、5位が肺炎、6位が誤嚥性肺炎、7位が不慮の事故、8位が腎不全、9位がアルツハイマー型認知症、10位がその他の認知症でした。新型コロナウイルスによる死亡数は3466人(11/14までの累計死亡数は18319人)で自殺の2万919人/年を下回りました。また、今年の100歳以上の高齢者が過去最高を更新しました。高齢者にとっても、新型コロナウイルスの影響は少なかったようです。

### ～新型コロナワクチン副反応について～

11月5日時点では全国人口の73.1%が2回接種終了しました。厚労省から11月12日に発表されたワクチン副反応報告では、因果関係は不明ですが累計1359人の方が死亡、重篤副反応が5607人と報告されています。若い人に多い心筋炎関連の副反応は、ファイザー製、モデルナ製を合わせると362例が報告されており、特に10歳台と20歳台の男性に多く認められています。ほか、米国の統計では若年者は2回目の接種後に心筋炎を発症するリスクが1回目より10倍高いと報告されています。英国、台湾、香港では10代の子どもには1回の接種のみを推奨しています。

文責：清水マリ子

表：10月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	溶連菌	192
2	胃腸炎	78
3	ヘルパンギーナ	15
4	伝染性膿痂疹(ヒトヒ)	8
5	手足口病	4
6	アデノウイルス咽頭炎	2
6	おたふくかぜ	2
6	突発性発疹	2
9	RSウイルス	1

※コロナ流行中、当院では感染症検査は防護服着用し必要最低限実施しています。

あんず通信バックパ-は  
クリニックホームページからご覧になれます。  
<https://ssn-clinic.net/>

### ～あんずからのお知らせとお願い～

★**空き状況**をWebで確認出来るようになっていきます。しみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。ご予約は必ずお電話でお願い致します。

★**キャンセル**をされる場合は、**留守番電話で構いませんので当日8:30までに必ずご連絡**をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。

### ★病児保育室あんずでの新型コロナ対策★

病児保育室内では、マスク、手洗い、消毒、換気など定期的に行っています。また、出来る限り隔離室を利用し、子ども同士が同じ部屋にならないよう配慮しております。ご予約の際には、感染予防のために新型コロナウイルス感染者との接触歴や流行地に行っていないか等お聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。

